

2020年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 ゆめじ
 代表者・役職名 氏名 ホーム長 山家 幸晟

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真的肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

入居中の子どもたち、ケアワーカーの野外活動を通した交流と社会体験

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成30年4月1日にゆめじ開設、当時広島県には男子のホーム1か所しかなく、ここも休止中だった。

この法人は、社会的養護を必要とする子どもたち、また地域の家庭に対して、相談、支援を行うことで児童家庭福祉、ならびに地域福祉の増進に寄与します。

正会員 34名 賛助会員 23名(令和2年4月1日時点)

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

ゆめじは平成30年4月1日に開設した自立援助ホームである。開設場所は広島県大竹市であり、現在広島県内には3カ所の自立援助ホームがある。しかし、男子2カ所(うち当法人運営が1カ所)の状況はすでに2カ所ともに定員を満たしている状況であり、さらなるニーズに対応するためには3カ所目の自立援助ホーム(男子)の増設を望まれる声を、利用者や関係機関から聞くことがある。

家から離れて自立を目指す子どもたちにとって日々の就労や通学に加えさまざまな社会体験や遊び、息抜きも必要となる。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ホーム入居中の子どもとケアワーカーが野外活動を通して、日頃見れないような子どもの表現や態度を観察し、これからの子どもの自立支援に向けてのヒントを得るとともに、より良好な関係づくりを図る。また、飛行機などの公共交通機関を利用、これを自立訓練としても位置付ける。(コロナ禍となった状況を考慮し、行き先を東京から大阪へ、交通手段の飛行機を新幹線に変更した。)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

・これまで新幹線に乗ったことのない子どもにとっては、貴重な社会体験となり自立した後の生活にも活ける機会となった。

・普段の生活では距離を取っていた子どもたちが旅行を通じて会話するようになり、ホーム内の人間関係が良好なものへと変化した。

・一緒に買い物や公共交通機関の旅券の金額を知ることで金銭感覚を養う機会となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回、子ども達に取って良い機会となったが、回数としては少ない為、こういった行事以外の日常生活においても公共交通機関の利用機会の提供や、ホーム内の人間関係が良好となる仕掛けをしていく必要がある。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり • 特になし

